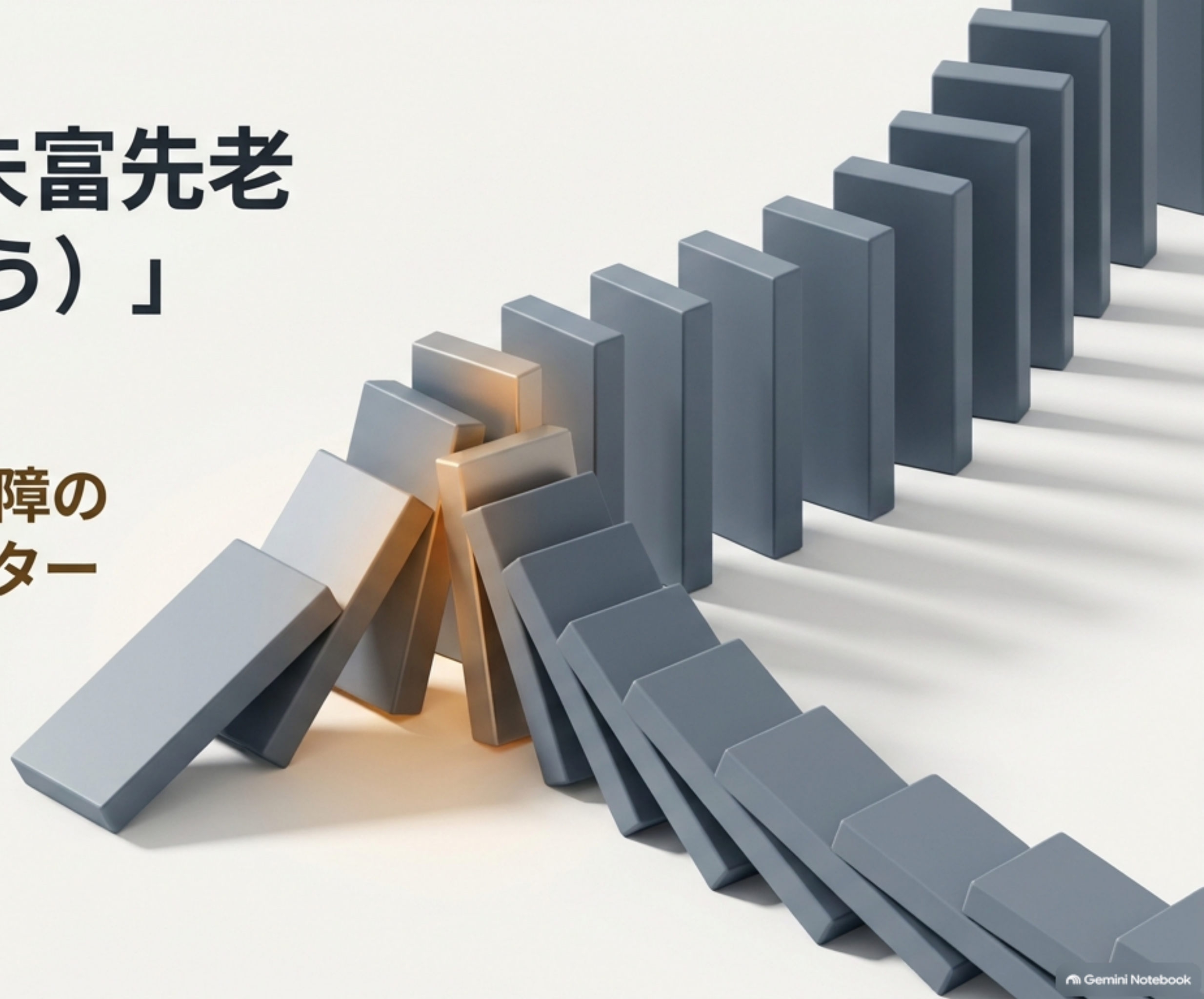


東アジア「未富先老 (みふせんろう)」 ドミノ

人口消滅と社会保障の
持続性シミュレーター

TK MAX
Financial & Economic Report





東アジアが直面する 「共通の課題」と 「異なる老い方」

日本、韓国、台湾、そして中国。これら4つの経済圏はすべて「少子高齢化」という同じ運命を共有している。しかし、その老いを迎える「フェーズ」には決定的な違いが存在する。

データが示す「老いのスピード」と「豊かさ」の乖離

	日本	韓国	台湾	中国
出生率	1.15	0.80	0.695 (世界最低水準)	1.0前後
高齢化所要年数	24年	18年	-	約20年
到達時GDP	約3.9万ドル	約3.3万ドル	-	約1.3万ドル

中国は、日韓の「約3分の1の豊かさ」の段階で、主要先進国以上のスピードで高齢社会に突入している。

構造的ジレンマ：
「未富先生老（みふせんろう）」

豊かになる前に、
老いが先に来る。

先進国型の所得水準に達する前に、
人口動態だけが先進国を上回るスピード
で高齢化してしまう特異な現象。

水準

高齢化率の上昇カーブ

国民所得の上昇カーブ

時間・発展

人口動態がもたらす「若者論」の共鳴

社会の成熟度・閉塞感

日本

「さとり世代」
「草食化」

韓国

「ヘル朝鮮」
「三放世代」

台湾

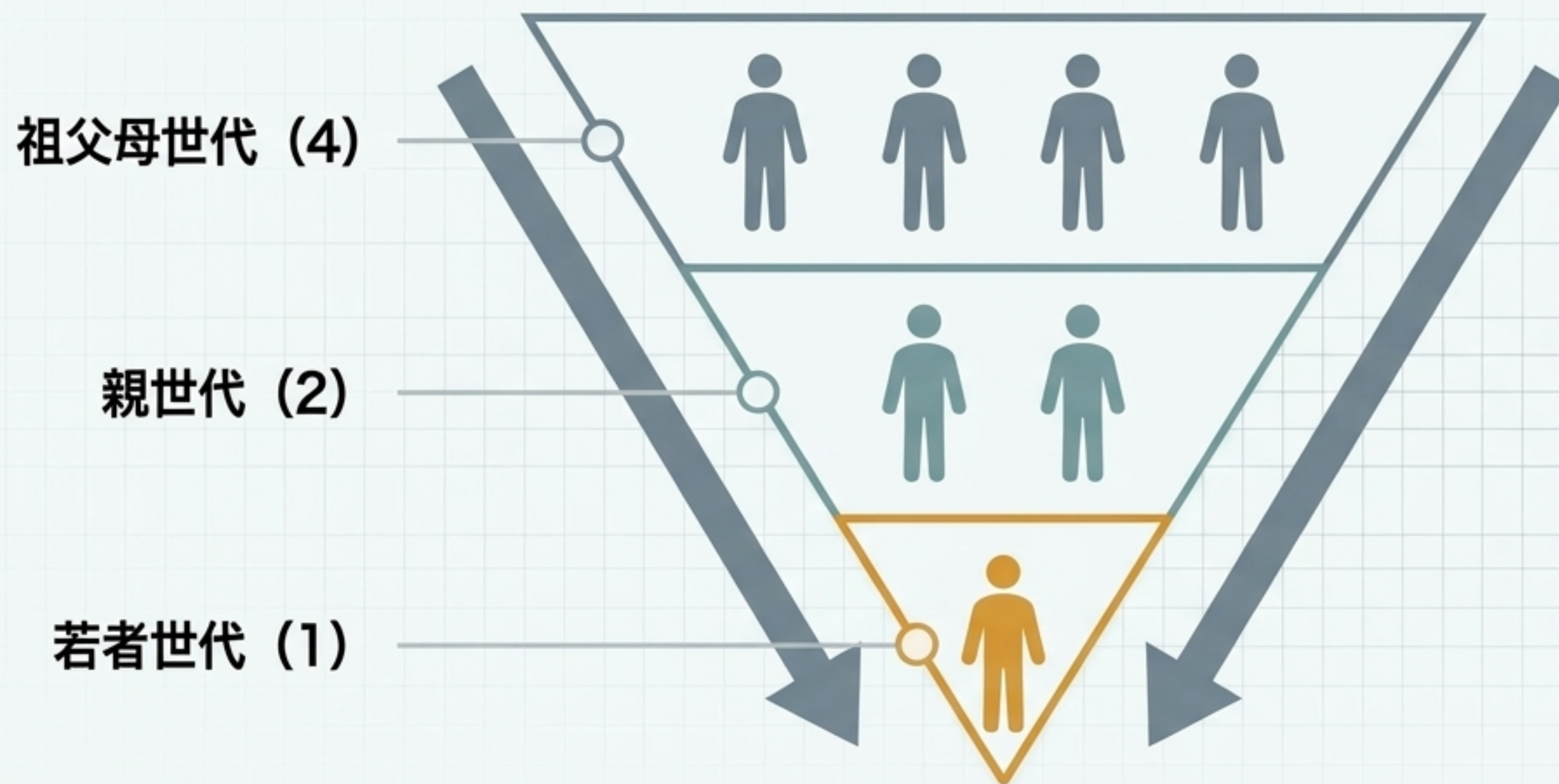
「悶世代」

中国

「四不青年
(しふせいねん)」
「タンピン
(寝そべり族)」

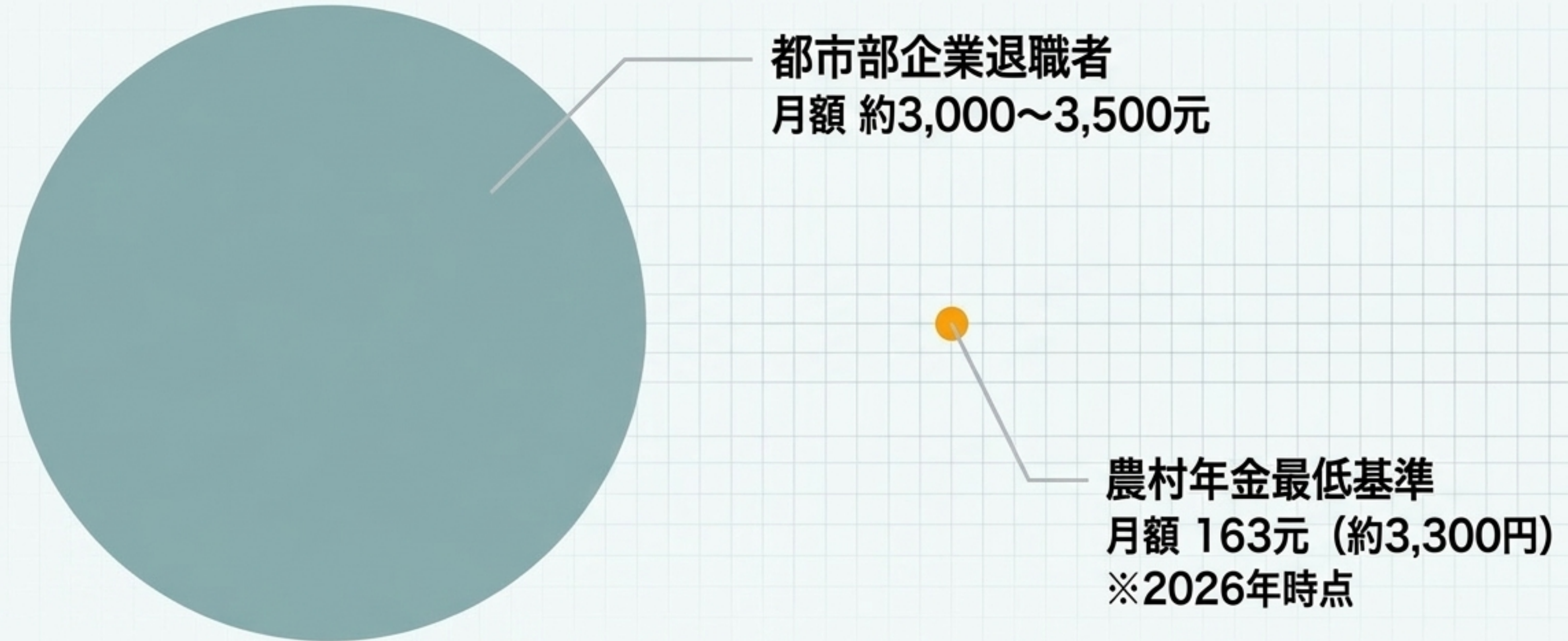
表現は違えど、低成長と構造的重圧に対する若者の心理的反応
(=社会への参加拒否) は、東アジア全体で共通している。

心理的ハードルを引き上げる「4・2・1問題」



一人っ子政策のもとで育った世代同士が結婚すると、夫婦1組で最大7人のケア（介護・医療・負担）を背負う。この「逆三角形の力学」が、結婚や出産への最大のブレーキとなっている。

セーフティネットの格差：月額163元が意味するもの



「豊かになれないまま老いていく農村」の存在。
この圧倒的な格差と将来不安が、中国全体の内需（消費）を構造的に押し下げている。

構造的ひずみを可視化する「2つの動的パラメーター」

若年層の寝そべり深化率（タンピン度合い）



結婚・出産・住宅購入から降りる度合い。将来の保険料の担い手減少スピード。

地方政府の土地財政の細り度



年金補填の原資となってきた地方の土地売却収入の落ち込み。

波及するドミノ：5つの「ひずみゲージ」



① 若者の絶望度



② 農村年金の維持限界



③ 地方年金基金の破綻圧力



④ 都市と農村の格差ストレス



⑤ 中央政府の救済コスト（最終負担）

背景となる現実：

- 2025年出生数：792万人（過去最少）
- 若年層失業率：17.9%（26年7月）
- 2025年結婚登記件数：676.3万組（ピーク時の半減以下）

究極のパラドックス：「ゆりかごの逆説」



統制の力

設備投資、関税、法規制。「産ませない」強制（一人っ子政策）は国家権力でコントロール可能だった。



個人の選択

結婚、出産、育児。個人の選択の集合であり、権力でも「産ませる」ことは直接強制できない。

少子化の進行は、統制型システムの限界を映す鏡である。

“

Deep Dive（ディープダイブ）と分析の視点

本コンテンツは、公開データに基づく独立した分析・研究目的のものです。
特定の破局シナリオを煽る意図はありません。

シミュレーターの数値は仮定に基づく簡易モデルであり、
公式な将来予測ではありません。未来のシナリオがどう波及していくか、
その判断は視聴者自身の手になされます。

”

自らの手で、 未来のシナリオを動かす。

TK MAX 金融・経済レポートのダッシュボードで、複数の未来シナリオを自らの手で操作し、波及効果をご体感ください。

Website: <https://tk-max-site.vercel.app/> 

X: https://x.com/TK_MA55 

Email: tk_max@ymail.ne.jp 

